

●参加国は35カ国、参加選手1,128人  
(うち日本人参加選手90人)

●大会経費 約2,200億円

- ・競技場建設 約92億円
- ・大会運営費 約100億円
- ・道路、地下鉄などまちづくり経費 約2,000億円

●まちづくり

本大会に関連する投資によって、札幌のまちづくりは、10～15年は早まったともいわれています。経済効果は、約4,180億円。

(資料：第11回オリンピック冬季大会札幌市報告書)

▼札幌市作成の記念  
スタンプ(手稲山関係)



※アルペン  
アルプス地方で発達したことからいわれるようになりました。スキー競技で、滑降・回転・大回転・スーパー大回転の4種目および、その複合競技。斜面を滑降する速さを競います。



※ボブスレー  
氷上のF1ともいわれるボブスレー。最高時速は120kmにもなります。氷のコースをハンドルとブレーキのついた鋼鉄製そりで滑降します。



※リュージュ  
フランス語で小型の木製そり。最高時速は100kmです。スピードに耐える強靱な体と鋭い反射神経が要求されます。英語ではトボガン。



特集

手稲の歴史をひもとく

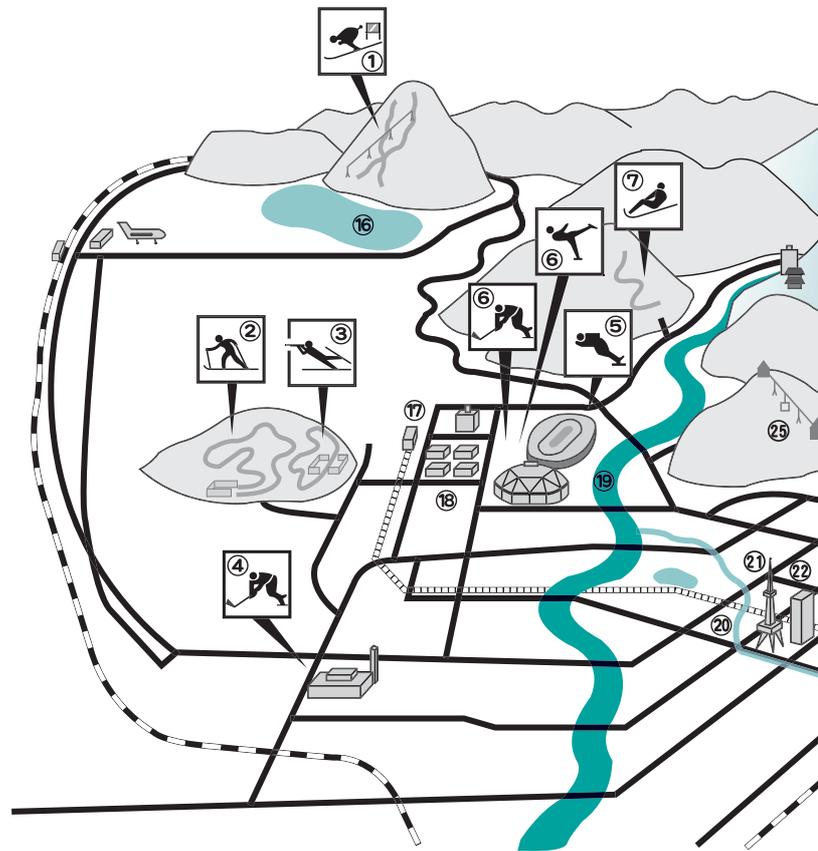
第11回冬季オリ

1972(昭和47)年2月3日～13日(11日間)

今から32年前の1972(昭和47)年2月札幌で開催されました。手稲山では、一競技、リュージュ競技が行われ、ました。

今月は、オリンピックが行われた当歴史をひもときます。

札幌オリンピック冬季大会競技施設パノラマ図  
(当時の資料から再現)



●「札幌八十五点。」

ました。大会の各競技場は、都心から四十キロ以内の至近距離にあり、しかも標高が低いという利便性を備えていました。標高は最高の恵庭岳ですら、わずかに千三百二十メートル。欧米のアルペン会場は、一般に二、三千メートルの高地なので、招致運動のころは、外国の記者から「札幌の標高表示は間違いですか？緯度からみてそんな低地には雪は降らないはずだ」と不思議がられたそうです。また、昭和十一年のベルリン大会以来、すべてのオリンピック大会を取材してきたスウェーデンのハンス・L・ストランドベル記者は、「ベルリン大会を八十点とすれば、東京大会も八十点。札幌大会は、文句なしに東京を上回る八十五点をあげたいと思う。最も良かった点は、競技会場を中心部の近くに集めたことでしょう。(中略)最後に大会を成功させたのは、あなたたち(札幌の人々)だ、ということとを付け加えたい」と語っています。

札幌市民が、最高の「おもてなしの心」で世界の方々を迎えたという心温まるエピソードです。